

時期

トピックス

■京阪中之島駅でホーム酒場！

2016年6月22日～6月25日の間で京阪ホールディングス株式会社・京阪電気鉄道では、中之島エリアの活性化や魅力発信を目的として、中之島駅に停車した電車とホームを会場に、レトロ感あふれる立ち飲みスタンド等の飲食店を並べた「中之島駅ホーム酒場」を開催した。

通常は営業運転に使用している2200系車両や中之島駅3番線ホームを、「ノスタルジー」をテーマに、立ち飲み・テーブル席・ちやぶ台・囲炉裏席・野点席など変化に富んだ空間に変身させ、お好みの空間で飲食を楽しめるようになっていた。お酒はサントリーのビール「ザ・モルツ」や、伏見を中心とした選りすぐりの日本酒等を販売。フードは、大津線で大好評の「おでんde電車」のおでんをはじめ、全国のカップラーメン、中之島エリアの人気店のメニューなどバラエティ豊かなラインナップで展開されていた。

またホームや車内には、中之島エリアのフリーペーパー「月刊島民」の協力を得て、中之島の歴史や文化を伝える写真等を展示。電車や駅のホームで飲食ができる「非日常感」とともに、中之島の歴史と文化に触れることができた。

イベント当日は、長蛇の行列ができるほどの人だかりで、仕事終わりやホーム酒場目当てのビジネスマン、OL、外国人観光客などで入場制限がかかる程大盛況のイベントとなった。6月23日は**1500名ほど来場したという**。

同社ではこれまでも、走る電車内で日本酒を楽しむ「日本酒電車」などのイベントを実施してきたが、駅のホームと停車している電車を会場、当日ふらりと立ち寄りてお酒を楽しめる企画は今回が初めて。「普通の飲み屋さんのように、好きな時間に来ることができるイベントにしたかった」と企画担当者はいう。



6月下旬

■JR西日本大阪環状線の新車323系公開！

2016年6月24日、JR西日本は大阪環状線の新型車両323系を公開した。快適性のほか、乗降用のドアの数が減少したことで安全性の向上が期待される。またこれに伴い、国鉄時代に製造された大阪環状線の電車が新車へ置き換えられる予定。

◆主な変更点

- ・新型車両323系は8両編成。ステンレス製車体で、JR西日本が近年投入している北陸本線525系3次車、広島地区の新型車両227系、阪和線新型225系に合わせた先進的な外観デザインとなり、基調色の大阪環状線で長年親しまれたオレンジを採用している。
- ・ドアの数は現在の大阪環状線用電車は乗降に使うドアが片側4ドアだが、323系は大阪環状線に乗り入れる阪和線・大和路線(関西本線)の車両と同じ片側3ドアになった。2013年度に立ち上げた「大阪環状線改造プロジェクト」のロゴマークを車体全面・側面に掲出される。
- ・車内案内ディスプレイはドア上部に6カ所、車端部に2カ所の計8カ所(16面)設置され、4ヶ国語(日本語・英語・中国語・韓国語)での案内が可能になった。車内の自動放送などは日英2ヶ国語で行われる。車椅子・ベビーカースペースなど、バリアフリー対応も充実。無料公衆無線LANサービスにも対応している。2016年～2018年度にかけて計168本(8両編成×21本)を投入する予定だ。



6月下旬

■JR西日本京都駅、大阪駅に豪華列車「瑞風」のラウンジ設置へ

2016年7月8日、JR西日本は豪華クルーズトレイン「TWILIGHT EXPRESS 瑞風」が2017年春の運行を開始するのにあわせ、乗車駅(京都、大阪、下関)にラウンジやモニュメントを設置すると発表した。

京都駅では隣接する「ホテルグランヴィア京都」の15階に専用ラウンジを常設。大阪駅では隣接する「ホテルグランヴィア大阪」の20階に、列車の出発時のみにラウンジが用意される。いずれも、乗車前のチェックインや荷物預かり、ドリンクの提供などが行われる。下関駅では車両を早期に入線させ利用者に車内でくつろいでもらおうと共に、ホーム上でも出発までの時間を楽しんでもらえるよう、8.9番線のりばにモニュメントやベンチなどが新設される。

▼車内・外のイメージ図

▼ホテルグランヴィア京都に常設されるラウンジ(イメージ)

▼グランヴィア大阪のラウンジ(イメージ)

◆TWILIGHT EXPRESS瑞風の概要

- ・2017年春より運行(京都～下関間)
- ・車両:10両編成
- ・定員:30人程度
- ・2クラスの客室6両、ラウンジカー1両、展望スペース付先頭車2両
- ・1泊2日、2泊2日のコースが中心



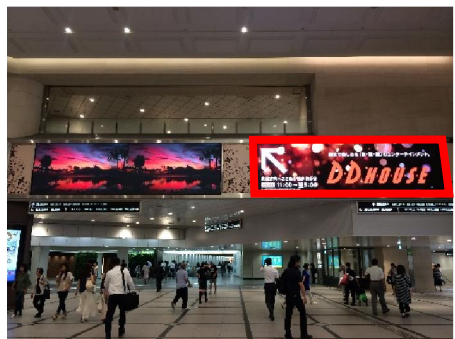
7月上旬

■阪急梅田・阪急百貨店前に新デジタルサイネージが登場！！

阪急百貨店うめだ本店前コンコースの北広場2階垂壁に新型デジタルサイネージ「阪急梅田グランドビジョン」が設置される。

当サイネージは、阪急百貨店前の南北通路の流動と正対しており、百貨店利用者に加え、ビジネスマン(阪急梅田駅⇄他電鉄梅田駅乗り換え)などの利用者の幅は広く訴求力は高い。

- ・放映開始日:2016年8月1日 ※7月25日よりテスト放映
- ・サイズ:⇒H1,900mm×W6,700mm(約275インチ)
- ・放映料金(7日間・税別):1枠15秒⇒220,000円
1社買切(※2017年4月3日より)⇒3,300,000円
- (参考)ツインビジョン⇒サイズ:H1,080mm×W3,840mm(約300インチ×2)
放映料金:1枠15秒⇒300,000円
1社買切⇒4,800,000円
- 阪急梅田駅1日平均乗降人員 約54万人



7月下旬